

＜雑木雑草雑魚雑談＞利用価値、商品価値のあるなしで木、草や魚に“雑”の字を付けるか付けないかを人はかなり主観的に決めてきたようです。「スギやヒノキや雑木……」、真っ直ぐに伸びて柱などになるもの以外は雑木。それぞれ立派な名を持つ木々も“十把一絡げ”で雑木。“ぞうき”はまだしも“ごつぼく(植林行政上の表現?)”とは……。雑木林が生き物を育む力や治水(保水)力は針葉樹林よりはるかに優れている上、いろんな役に立つ木々も多いのですが。また四季折々には雑木林そのものだけでなくそこに棲み暮らす動植物が人々の目や耳を楽しませてくれます。葉をすっかり落とした梢や一昔前まで薪として切り出された古株の跡さえ風情があります。ところで人々が入り込んだ後も逞しく生きているのが雑草、そして不幸にも網に掛かったあげくに捨てられるかもしれないのが雑魚(ごこ)、立派に名前がみんなあるのですが

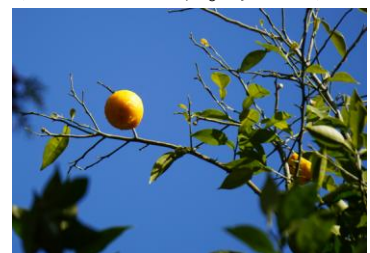


＜葉を落としたイヌザクラ＞

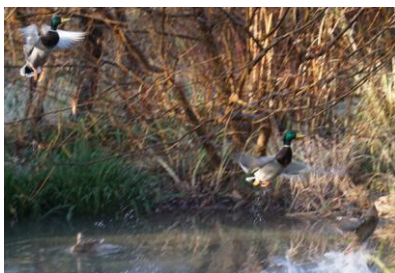


＜古株の跡を残したクヌギの幹＞

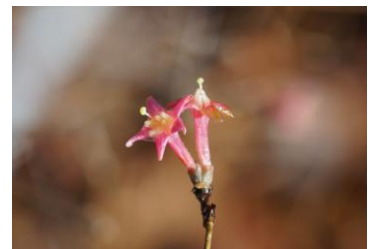
＜待つ＞雑木林のはずれに大きなユズの木がありまだ幾つも実を残しています。見上げると青空を背景に葉の緑と実の黄色が映えます。林の縁のオケラやコウヤボウキも羽毛の付いた種をまだ離しません。一方、カワヅザクラの花芽は少しずつ大きくなっているような気がします。そんな中、春を待ちきれないのか、ウグイスカグラが葉も出さずに花を沢山付けています。めでたい名(鶯神楽)なので初釜(茶道での新年の茶会)に飾る花ですが SHC では例年4月初旬になって見られるものです(ビオトープの四季 No.1 参照)。さてさてどうしたのでしょうかね。



＜瞬発力＞ビオトープの池に朝方やってきて水面を滑るように泳いでいるカモたちの姿は何とも穏やかでほっとさせられます。



しかしカモたちはのんびりしているわけではなく小さな物音にも敏感です。左2枚のうち下の写真は数秒とは空けないで撮ったものですが最初のシャッター音に驚いたのでしょうか、凄い瞬発力で飛び立ったところです。ただ少しおっとりとしたのもいるのですね。



右写真：上から＜ユズ＞、＜コウヤボウキ＞、
＜カワヅザクラの芽＞、＜ウグイスカグラ＞

(文と写真：松本正勝)